

技能実習生社内受入 オリエンテーション実施用資料

実習生の配属前に職員さん対象のオリエンテーション開催を



初めて外国人技能実習生を受入れる事業所の職員の皆さんが不安や戸惑い、困惑を持つことは避けられません。だからこそ、配属前に職員さん対象に実習生とどの様に向き合ったらよいか、一緒に仕事をする上で大切なこと、万一のトラブル時の対応の仕方、日常生活での交流の仕方を学び、理解頂く場を作ることをお奨めします。

外国人として特別視することなく、1人の人間として向き合うことが原点

オリエンテーションの基本は、対応や対処のハウツーを教えるだけではありません。教える基本は増え続ける外国人と日本人として向き合うための基本的な考え方と接し方のポイントです。とりわけ大事なことは1人の人間として向き合うことの大切さです。今後、日本のあらゆる分野で外国の人が来て働くことは普通になります。いち早く対応できる事業所になるためには、手間を惜しまず行うことが大切になっています。

講師は、自分の体験をベースに語れる人を選ぶ

オリエンテーションで学ぶ時、知識として外国の方との一般的な接し方や仕事の仕方を語る講師だけでは不十分と思います。大切なことは、テクニックや対処法を教えることではなく、自らの体験や経験で得た物や知識をベースに教える事と考えます。良く書店等で売られているハウツー的な本には、全部ではありませんが受け売りので本当にそうかなと感じる物がありますが、それと似た受けとめ方になっては効果が半減してしまいます。

何故、体験や経験のある講師が大切なのかですが、理由は体験や経験に優る物はないからです。実際に外国の方と一緒に生活や仕事をしたり、行動すると多種多様な価値観や人生観、金銭感覚を持っていることが分かります。また、人間関係についても人それぞれの考え方を持っていることも分かります。



深く交流するとその国の人全員が同じ様な考え方、価値観ということではなく、1人1人が個性溢れる人ばかりであることが分かります。本当に実際に入り込まないと知ること

ができないものばかりです。オリエンテーションは外国の方とこれから接し、一緒に仕事を始める導入の最初の1歩だから、なおさら皮膚感覚で語れる講師から学ぶことを大切にしてほしいと思います。

職員様対象オリエンテーション開催要項 ※開催計画作りの参考にして下さい。

組合では実習生が入国後講習後、受け入れ先法人様へ配属される前に職員様を対象としたコミュニケーションの取り方、接し方、トラブルへの対処の仕方等を学ぶ「受入れ前職員対象オリエンテーション」をサポートします。実施の対象者は、実際に実習に関わる方を中心に必要な方を選抜して行って下さい。

オリエンテーションの目的と講義スケジュール、講義内容の例は、下記の通りです。これを参考にして自由に変えて下さい。

■オリエンテーションの目的

- ①技能実習生制度を理解して頂く
- ②外国の人との人間関係の作り方やコミュニケーションの取り方を学ぶ
- ③実際の仕事の中での協力関係の築き方を学ぶ
- ④仕事以外の交流の仕方を学ぶ
- ⑤外国の人が日本で暮らすことの意味を理解する
- ⑥国際交流とは、異文化や習慣、価値観を受け入れることを学ぶ

■オリエンテーション開催スケジュール例

13:30 開会（主催者あいさつ、スケジュール説明等）

13:40 テーマ 外国人技能実習生の迎え入れ方と職場での仕事の仕方、仕事を離れた日常での交流の仕方

講師は、組合役員・事務局又は専属講師 ※専属講師の場合は有料になります。

14:40 休憩

14:50 グループ討論（進行の方法や議論のまとめ方は、打合せ時にご説明します）

15:50 グループ討論の報告（報告のまとめ方、報告の仕方は打合せ時にご説明します）

16:15 講師からの回答、補足講義

16:45 閉会・終了

■ 講義やレクチャー内容の例

1、はじめに

今、外国人技能実習生が増えている。
本格的な外国の人との共生社会の到来。

2、技能実習生制度の目的

- ①日本の置かれている現状
- ②技能実習制度の目的は、知識や技術の移転を通じて相手国の発展に寄与する。

3、外国の人と向き合うための ABC

(1) 外国の人が生活している社会が普通になってきた。

- ①身近な存在になりつつある外国の人
- ②他民族との共生社会の到来

(2) 多様な価値観を受け入れる寛容さを持つよう

- ①単一化社会（日本）と多元化社会（外国）の違い
- ②物事の考える基準や考え方が違うのは当たり前を理解しましょう。
- ③日常生活や地域の人と交流する時に大切なルールを教えて上げよう

(3) 耳を澄ませて、聞く姿勢を持つよう

- ①ゆっくり会話する
- ②聞き取る気持ちを大切に
- ③反復確認をしよう

(4) 外国で働く、生きることの大変さを理解しよう

- ①1人異国に来て生きて、学び、働くことは決意がある
- ②助けを必要としていることを察してあげる
- ③仲良くなりたいと思っていることを理解しよう。

(5) 国際化とは、異国の文化や価値観を理解すること

- ①その国文化を知れば楽しくなる
- ②友人ができれば、もっと楽しい。



4、一緒に仕事を進めるためのポイント

(1) 打合せを丁寧にして下さい。

- ①始めは業務の打ち合わせを丁寧にして上げて下さい。
- ②必ず反復確認をして下さい。

(2) 現場では、やって見せるから始めて下さい

- ①最初は、実際にやって見せて教えて下さい。
- ②少し慣れたら本人にさせてから、間違いや思い違いがあれば教えてあげて下さい。
- ③上手くできたら、褒めてあげて下さい。

(3) メモを取ることを助言して下さい。

①メモを取ることは、仕事の理解を助け、間違いを減らすことにつながることを教えてあげて下さい。

② メモを取ることは日本語を聞き取り、理解を早めることを教えてあげて下さい。

(4) あなたから彼らに語りかけてあげて下さい。

①語りかけることは、コミュニケーションの第1歩です。

②語りかけることで、心の交流が生まれたら同僚としての関係が深くなります。

5、5、トラブル時の対応について

(1) まず、慌てないで本人の言いたいことを聞いてあげて下さい。

①聞いた上で、あなたの判断で話せることは伝えて下さい。

②判断がつかない場合は、先輩や責任者に相談して伝えて下さい。

(2) 本人責任の場合は原因を話し合い、何故この様な結果になったのかを話し、対処の仕方を教えて下さい。

(3) 万一、本人が責任を認めない場合は、先輩や責任者とも相談して対処して下さい。

6、仕事を離れた時間の関わり方を大切に。

①仕事を離れると、孤独になっていることを知って下さい。

②時には、疎外感を感じていることも理解してあげて下さい。

③一緒に遊べそうな事、やれそうな物が有る時は、誘ってあげて下さい。

④彼らと一緒に何かをする場を持てれば、相互理解と一層の友情と連帯が育まれます。

⑤国際交流は、特別なものではなく日常のさりげない交流が原点です。

最後に

外国人との共生が当たり前の時代を理解しよう。

母国の家族の期待を背負って来られる実習生を温かく受け入れよう。

